

# 第74回 CPD セミナー・公開講座・見学会(愛媛例会)

## 1 概 要

2021年11月26日(金)に、松山市えひめ共済会館に於いて、「第74回 CPD セミナー・公開講座(愛媛例会)」を、また翌11月27日(土)には、松山市景観整備「花園町通りリニューアル」と葉佐池古墳の「見学会」を開催しました。

表1 プログラム(1日目)

————— 11月26日(金) —————	
<b>1. 開会挨拶 (13:00~13:10)</b>	(公社) 日本技術士会四国本部 副本部長 富士 達雄
<b>2. 公開講座 (13:10~14:10)</b>	演 題:『伊能忠敬と伊予の測量家』 講 師:愛媛県歴史文化博物館 学芸課長 井上 淳 氏
<b>3. 防災講演会 (14:10~15:10)</b>	演 題:『松山全世代型防災教育の展開～大規模災害に備える人材教育～』 講 師:愛媛大学特命教授 矢田部 龍一 氏
<b>4. CPDセミナー (15:20~16:50)</b>	演 題:『脱炭素と地層処分～環境への適合～について』 講 師:東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻 准教授 小宮山 涼一 氏 (リモート講演) 資源エネルギー庁 青田 優子氏
<b>5. 修習セミナー (17:00~17:30)</b>	講 師:四国本部 修習技術者支援委員会 藤本 憲洋 委員
<b>6. 第二次試験合格者紹介</b>	
<b>7. 懇親会 (18:00~20:00)</b>	(1) 挨拶・乾杯(公社) 日本技術士会四国本部 幹 事 増田 信 (2) 歓 談 (3) 中締め (公社) 日本技術士会四国本部 事務局長 栗本 好正
<b>8. 閉 会</b>	



写真1 セミナー会場の様子

## 2 公開講座 井上 順氏

公開講座は、講師に愛媛県歴史文化博物館学芸課長 井上 順氏をお招きし、『伊能忠敬と伊予の測量家』と題しましたご講演を頂きました。

江戸時代の測量図と言えば実測で日本地図を作った伊能忠敬が有名ですが、実はそれより以前にも各地には優れた測量技術者がいたことについて講演をして頂きました。

地元愛媛県においても伊能忠敬の測量に協力を行った測量技術者である、宇和島藩「小川五兵衛」「小川五郎兵衛」、大洲藩「東寛治」の業績をご紹介頂きました。

当時の地図は絵図風に書かれており、山・水路・耕作地などの情報も豊富で、現在の航空写真と重ねてもかなり一致する非常に精度の良い絵図であることに驚かされました。



写真2 井上氏の講演

### 3 防災講演会 矢田部 龍一氏

防災講演は、講師に愛媛大学特命教授 矢田部 龍一氏をお招きし、『松山全世代型防災教育の展開～大規模災害に備える人材教育～』と題しましたご講演を頂きました。

講演では、近年世界的に増大する自然外力に対してハード対策のみでは想定内の外力までしか対応できないことから、今後は様々なソフト施策を取り入れる必要があるとのお話がありました。

中でも「自律性、継続性、効果」の観点から「事前復興デザイン、防災教育」を強く進めていく必要があります。特に防災教育の分野で「根こそぎ教育するような仕組みづくり」を目指して「松山市50万人防災教育モデル」を実施しているとのこと。また、これらの教育モデルをさらに堅実なものにするためにも、技術士会に「松山防災リーダー育成センター」への協力要請がありました。



写真3 矢田部氏の講演

### 4 CPD セミナー 小宮山 涼一氏

CPD セミナーは、講師に東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻准教授 小宮山 涼一氏をお招きし、『脱炭素と地層処分～環境への適合～について』と題しましたご講演を頂きました。

講演では、カーボンニュートラルと急増する電力需要対応の両立のための技術について、問題点を踏まえ分かり易くご説明して頂きました。

今後社会生活に欠かせない電力に関して、再生可能エネルギーだけでは「需給バランスの調整対応力」「蓄電技術」「送電線」等を考えると、発電

コスト自体は安くとも電力網として考えた場合は非常にコストが高いとのお話でした。

再生可能エネルギーだけに頼るのではなく、安全性を確保した上で原子力エネルギーとの共存を考えた議論が必要であると感じます。



写真4 小宮山氏の講演

講演の後半は、資源エネルギー庁 青田氏より「高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会」の内容についてセミナー会場とオンラインで結んでの講演がありました。

核廃棄物の安全な処分方法として現在取り組んでいる地層処分について、安全技術面・地下環境面・建設技術面からの取り組みについてご紹介いただきました。

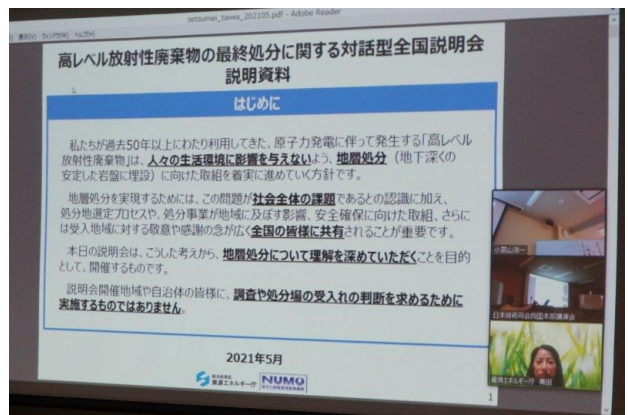


写真5 リモート講演(青田氏)

東京電力福島第一原子力発電所事故が実際に発生した今、地層処分は受益地域と非受益地域が異なることから「社会的合意」についても大きな課題が残ると感じます。

## 5 修習セミナー 藤本 憲洋委員

修習セミナーは、藤本修習技術者支援委員より技術士合格者の推移や技術士試験制度について詳しく説明をして頂きました。

先日開催した愛媛大学学生とのオンラインセミナーの実例についてもご紹介していただきました。



写真6 藤本氏の講演

## 6 第二次試験合格者紹介



写真7 新合格者(撮影時マスクは外してもらいました)

## 7 懇親会

増田幹事の挨拶と乾杯の音頭で懇親会が始まり、歓談の後、栗本事務局長の中締めで閉会しました。



写真8 栗本事務局長の中締め

## 表2 プログラム(2日目)

————— 11月27日(土) —————

### 1. 見学会 (8:30~12:30)

『松山市景観整備～「花園町通り」のリニューアルと「松山市駅前広場」開発～』

(案内) 松山市役所都市・交通計画課

遠藤 敬二郎 氏・柚山 智範 氏

『葉佐池古墳見学(松山市北梅本町)』

(案内) 松山市立埋蔵文化財センター所長・松山市考古館 館長 梅木 健一 氏

### 7 見学会

翌27日は、松山市役所 遠藤氏・柚山氏から詳しい説明を受けながら、市駅前銀天街側から花園町通りの間を移動しました。

現在、花園町通りは「電線地中化」「自転車専用道の整備」「歩行空間の確保」「自然石や鋼材、県産木材を用いた景観の創生」等によるリニューアルが完了しており、要所要所で整備の概要についての説明を受けながら、実際の歩道空間とその効果を体感することができました。

さらに、松山市は中心市街地の活性化を推進するため花園町通りと銀天街をつなぐ「松山市駅前広場」の整備を進めており、その影響や効果を調べるために交通規制を伴った社会実験が先日終了したところであるとお話でした。



写真9 花園町通りの説明

花園町通り見学後は、バスで松山市北梅本町の「葉佐池古墳」へ移動しました。

梅木館長の古代衣装のコスプレで出迎えを受け、先ず館内で「葉佐池古墳」の時代背景等について分かり易くご紹介いただきました。

「葉佐池古墳」は平成4年の造成時に偶然発見され、未盗掘のままであったことから副葬品の状態も良く、古墳時代の葬儀の様子や地域性が良くわかる貴重な古墳であることが認められて、現在国指定史跡になっています。

古墳時代の葬儀については、人骨にハエのさなぎ殻が付着していたことから死後かなりの間外の場所に安置されていたことが推察され、古代の儀礼「殯＝もがり」を考古学的に証明する貴重な資料となったとのことでした。

葬られた人物は、この地が古墳時代に「須恵器」の生産地であったことから、当時のリーダー的な人物ではなかろうかとのお話でした。



写真 10 梅木館長による説明



写真 11 1号石室の復元状況



写真 12 集合写真(葉佐池古墳前にて)

## 8 おわりに

コロナの状況が落ち着きを見せる中、香川県・徳島県・高知県からも多数の方がお見えになられ、セミナー・懇親会合わせて総勢 52 名のご参加を得て大いに賑わいました。

皆様、お忙しい中ありがとうございました。